



LMC 教育プログラム

LANGUAGE, MEDIA AND COMMUNICATIONS

「語学学習」と 「その先」をつなげる 教育プログラム

日本映像翻訳アカデミー (JVTA) は、映像翻訳 (字幕翻訳・吹き替え翻訳) のプロを養成する社会人向けの職業訓練校です。1996年に東京校が設立され、おもに英日 (英語から日本語) と日英 (日本語から英語) の映像翻訳を指導。現在ではロサンゼルス、モスクワでもスクールを運営しています。スクール修了生に映像翻訳の実務を発注する翻訳エージェントの機能も併せ持っているのが大きな特徴で、スクールとエージェント共に映像翻訳業界でトップクラスの実績を誇っています。



JVTAの学校教育機関向け 「LMC 教育プログラム」

JVTAでは、この社会人スクールとは別に、学校教育機関でも講義を行っています。講義は語学教育、映像を中心としたメディア教育、コミュニケーション教育などが一貫したテーマとなっており、そこからこの講義プログラムを“Language, Media and Communications”の頭文字を取って「LMC 教育プログラム」と呼んでいます。

指導を担当するのは、大学の非常勤講師も務める社内講師や、指導経験豊富なネイティブ講師ら。映

像翻訳のほか、語学学習、動画制作、プレゼンテーションなど多岐にわたる講義を実践してきました。これらのプログラムの中心にあるのは、JVTAという会社のミッションでもある「言語の習得に人生を重ね、学び、行動するすべての人を応援する」という思いです。LMC 教育プログラムを通じて、学生・生徒の皆さんの語学学習を応援するとともに、語学を学ぶことは自分の世界を押し広げ、あらゆる世界とつながる可能性を秘めた行為であることを実感してもらいたいと考えています。

LMC教育プログラムの歩み

2010年以來、多彩なプログラムを展開し、大学の正規科目にも採用

初めて青山学院大学での指導に携わった2010年からこれまでに、国内外の大学から小学校まで40校以上でLMC教育プログラムに基づいた指導を実践してきました。中でも私たちが誇りにしているのが、講演やゲストとしての招聘にとどまらず、大学・高校など複数の学校で正規科目や長期の講義として導入されているという実績です。「職業体験」や「翻訳体験」という枠を超え、LMC教育プログラムの教育的意義・効果を高く評価していただいている証と言えるでしょう。

● 日本映像翻訳アカデミー株式会社の歩み ● LMC教育プログラムの歩み

1996

- 日本映像翻訳アカデミー創立
- 英日映像翻訳科、English Clock を開講

2008

- ロサンゼルス法人設立
- UNHCR 難民映画祭
(現 UNHCR WILL2LIVECinema) の
字幕サポートを開始

難民問題の啓発・難民支援という理念に賛同し、字幕翻訳で映画祭をサポート。その後、指導に携わる大学で上映作を翻訳するようになるなど、結びつきを深めている。

2009

- 日本語表現力強化コースを開講
- アルク株式会社との共同運営による
オンライン通信講座
「映像翻訳 Web 講座」を開講

2011

- 青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」で
外部協力機関として映像翻訳指導などのサポートを開始
JVTA が初めて学校教育機関での指導に携わる。映像翻訳ラボが初めて翻訳を手がけたのはショートショートフィルムフェスティバル2010 上映作『ディア・マイ・フレンド』。
- 日本国内初の日英映像翻訳コースを開講
- MASC×JVTA
バリアフリー視聴用 音声ガイド&字幕ライター養成講座を開講
- 『はじめての映像翻訳』を出版

2014

- 国際コミュニケーションアーツ学院 (GCAI) 設立
- 明星大学人文学部国際コミュニケーション学科
「映像翻訳フィールドワーク」(現「映像翻訳」)で指導を開始
この年から LMC 教育プログラムの導入が本格化。明星大学は JVTA スタッフが非常勤講師として指導を行う初めてのケースとなった。
- 東京成徳大学高校 特別進学コース
「CTP (Critical Thinking Program)」で映像翻訳・動画制作・英語プレゼンテーションの指導を開始

2014

- 東京都中央区立常盤小学校で英語指導を開始

2015

- 学生インターンの受け入れを開始

初のインターン生はポーランドと中国から受け入れ。その後、現在に至るまで日本、ベルギー、ロシア、ミャンマーなどから数多くのインターン生を受け入れている。

2016

- リモート講義の導入を開始

- 海外大学字幕プロジェクトを開始

JVTA でのノウハウを活かし、LMC 教育プログラムにもリモート講義を導入。ヨーロッパの大学と結んでの講義を実施した。

2017

- Japanese Language and Media Institute (JLMI) 設立
- ロシア法人、OOO JVTA 設立

2018

- 『字幕翻訳とは何か 1枚の字幕に込められた技能と理論』を出版

字幕翻訳のメカニズムを分析し、最良の字幕を導き出す方法論を解析した他に類を見ない書籍。Kindle 版にて出版された。

- アメリカ現地の大学・高校で日本語アニメを題材としたボイスアクティング講座を開催

Japan Foundation の助成を受けたミシガン州立大学などからの招聘を受け、渡米して約 1 週間にわたり大学・高校などで講座を開催。

2019

- 英日字幕翻訳に特化した AI の研究・開発を開始
- 情報セキュリティ・マネジメントシステム (ISMS) の国際規格「ISO/IEC27001:2013」の認証を取得

- 青山学院大学総合文化政策学部「翻訳文化論」で指導を開始

- 在ロサンゼルス補習授業校あさひ学園にて、映像翻訳を正規科目に導入 (2020 年度より) するにあたって教員への指導を実施

2020

- 講義を全面リモート化

新型コロナウイルス感染拡大防止のための初の緊急事態宣言発出を受け、即時に全講義をリモートに切り替え。4 年前からのリモート講義の経験が生きる結果となった。

- ラーニング・マネージメント・システム「JVTA Online」を開発、導入

- 産学官共催アニメオンラインイベント「J-Anime Meeting in Russia」(日露地域交流年認定事業) を開催

CONTENTS

INTRODUCTION

- 1 「語学学習」と「その先」をつなげる教育プログラム
- 2 LMC 教育プログラムの歩み

ABOUT

- 5 社会が求める教育へのニーズを満たすプログラム
- 6 「グローバル人材育成」のニーズ
- 7 「動画の時代」のニーズ
- 8 「就業と教育の接続」のニーズ
- 9 「遠隔講義と教育の ICT」のニーズ

- 10 LMC 教育プログラムで広がる世界と可能性
- 11 プロジェクトに取り組むことで飛躍的に高まる「言葉」への意識・興味
- 12 共に考え、答えを探ることで磨かれるコミュニケーション力
- 13 語学を学ぶことの「先にあるもの」を知る

COURSES & PROGRAMS

- 14 提供コース&プログラム INDEX
- 15 ワークショップ
- 20 中期～長期プログラム
- 27 海外研修
- 30 指導者養成

REPORTS

- 22 【開催レポート】明星大学「映像翻訳」
- 23 【開催レポート】海外大学字幕プロジェクト (GUSP)
- 26 【開催レポート】東京都中央区立常盤小学校
- 32 【開催レポート】あさひ学園サンタモニカ校高等部

- 33 導入実績一覧

CONTACT

- 34 LMC 教育プログラム導入までのフロー／お問い合わせ

社会が求める教育へのニーズを満たすプログラム

LMC 教育プログラムは誕生以来、数多くの実績を積み重ねてきました。

その理由は、ほかに類を見ない独創的なカリキュラムでありながらも、現代社会が求めるニーズに合致していることにあります。

「グローバル人材育成」のニーズ



社会におけるグローバル人材のニーズはさらに高まっています。そこで求められているのは、語学力だけでなく、異文化コミュニケーション力、主体性、チャレンジ精神、協調性、日本人としてのアイデンティティーといった幅広い要素。映像翻訳をベースとしたLMC教育プログラムは、これらグローバル人材に対する様々な要求を高いレベルで満たしています。

- 1つの国、あるいは1つの社会の価値観に基づいて作られた映像コンテンツを深く読み解き、別の国・社会に暮らす人々に分かりやすく伝えるための創意工夫を施す。
- 日本語にアウトプットする作業においては、高度な日本語運用力が求められる。日本のコンテンツを他言語でアウトプットする作業においては、日本語や日本の文化・慣習などへの深い理解が求められる。
- ほとんどのプログラムにおいてグループワークが取り入れられ、ディスカッションをととして最適解を導き出すことが求められる。



今や社会基盤の1つとも言える映像コンテンツ。学校教育、特に語学教育への組み込みはまだ限られた形でしか実践されていませんが、LMC教育プログラムでは映像コンテンツを講義の主要な要素の1つとして取り入れています。

映像を深く読み解き、翻訳して視聴者に届けるプログラム。アニメを通して日本語に親しむプログラム。ハリウッドの映画の作り手たちによるワークショップ。若年層が親しみやすい映像コンテンツに深く触れることができるLMC教育プログラムは、映像メディアに対するリテラシーを高めるとともに、語学学習へのモチベーションを強く刺激します。

「動画の時代」のニーズ

「就業と教育の接続」のニーズ



近年行われたインターンシップ（就業体験）の定義の厳格化などにもみられるように、「就業と教育をどのように結びつけるか」は大学や社会にとって大きな課題となっています。PBL（Project Based Learning）の手法を積極的に導入している LMC 教育プログラムでは、映像翻訳をはじめとした語学を活用している仕事を実践体験することができます。

学生や生徒が多くの時間を費やして習得に励んでいる「語学」という技能が、どのように社会で活かせるのか、どのように社会に還元できるのか。プログラムを通じてそれらを体験することで、学生・生徒たちの今の「学び」が、いかに「就業」とつながっていくかを強く意識させることができます。



コロナ禍で急速に導入が進んだ「オンライン講義」や対面とオンラインの講義と組み合わせた「ハイブリッド型講義」は、今後、新たな教育方式として定着することが見込まれています。JVTAの社会人向けスクールでは、2016年から導入しているオンライン講義のノウハウを活かし、2020年4月以降の全講義（東京・ロサンゼルス・モスクワ）をオンラインで実施。また大学などにおける講義や学生が翻訳した作品の上映会も、オンラインで開催するなどの実績を積んできました。これらに加えて、独自に開発したラーニングシステム「JVTA Online」やビジネスチャットツール「Slack」などのITツールも積極的に活用。国内・海外のどこにいても、教室で対面講義と変わらない教育を提供できるのは、LMC教育プログラムの大きなアドバンテージです。

「遠隔講義と 教育のICT」のニーズ

A close-up photograph of a person's hand holding a globe. The globe is dark with a light-colored map of South America. The person is wearing a red garment. The background is a bright, sunlit outdoor scene with a blurred green field and a bright sky. The overall mood is warm and hopeful.

COURSES & PROGRAMS

LMC教育プログラムで 広がる世界と可能性

映像と言葉を媒介とした時代に即した LMC 教育プログラム。ほかに類を見ないカリキュラムは、学生・生徒たちにこれまでにない視点を与え、能力や可能性を引き出して大きく育てます。

プロジェクトに取り組むことで 飛躍的に高まる「言葉」への意識・興味

LMC 教育プログラムにはアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの視点からの学習法）やプロジェクト型学習（教科の枠を超え、プロジェクトや目標達成のために取り組む学習法）の要素が大きく取り入れられています。これらの学習法による教育効果には枚挙にいとまがありませんが、その中でも LMC 教育プログラムならではの効果と言えるのが、「言葉に対する興味を強く刺激する」という点です。

生徒全員でドキュメンタリー映画に字幕をつける。チームで協力して英語プレゼンを作り上げて大勢の前で披露する。グループで練習を積んで日本のアニメにアフレコをつけて収録する――。皆で1つのものを作り上げるという純粋な「楽しさ」と、成果を形にして披露することでのよい意味での「重圧」。これらによって、自らが解釈する言葉、紡ぎ出す言葉への意識や関心は、普段とはまったく異なるレベルにまで引き上げられるのです。





共に考え、答えを探ることで 磨かれるコミュニケーション力



JVTA が学校教育機関でプログラムを実践し始めた当初のことです。私たちのプログラムを体験した学生・生徒の中に、教育機関の先生方も驚くような人間的成長を遂げる学生・生徒が少なくないことに気づきました。その要因は、どの講義にもグループワークが大きく取り入れられていることにありました。

LMC 教育プログラムの講義においては、「唯一の正解」があるわけではなく、数多くの選択肢があります（例えば、あるセリフを翻訳するにあたり、『正解』はありませんが『よい字幕』は無数に存在します）。だからこそ、ゴールを目指す過程では、自然発生的に活発なディスカッションや相互のフィードバックが生まれます。また、講師も「正解」を知っているわけではなく、時には一緒になって考えながら最適解を探ります。そのため、最終的には学生・生徒たちが自発的に考え、手や頭を動かさなければ何も生まれません。そうした講義の積み重ねによって、学生・生徒たちのコミュニケーション力や自主性、積極性が引き出されていくのです。

語学を学ぶことの 「先にあるもの」を知る

語学学習は、時として実社会との繋がりや将来の仕事との結びつきが感じにくい分野でもあります。通訳・翻訳の仕事疑似体験したり、外資系企業や海外で働く際に語学が役立つことを知識として持ったりすることはできるでしょう。しかし、社会との結びつきまでを含めて、リアルに体験することは簡単ではありません。

LMC 教育プログラムの特色の1つは、「講義での成果（成果物）に対して、実社会からダイレクトな評価・反応を受け取ることができる」という点にあります。例えば映像翻訳のプログラムでは、学生・生徒が字幕翻訳をつけた作品の上映会で、一般の方々やご家族、友人などからの評価や感想を受け取ることができます。自分たちの手による字幕が、映画館で映画を観るのと同じ視点で鑑賞され、フィードバックが寄せられる——。研究発表や講義見学とは大きく異なるこうした経験は、語学学習に対して新たな視野を与え、語学を学ぶ学生・生徒が自分たちの将来像をより具体的に描くことに繋がります。



提供コース &プログラム



INDEX

<ワークショップ>

- 16 字幕翻訳ワークショップ
- 17 6センテンス英語プレゼン・ワークショップ
- 18 ボイスアクティング・ワークショップ（日本語学習者向け）
- 19 英語学習プログラム（小学生・キッズ向け）

<中期～長期プログラム>

- 21 字幕翻訳プログラム
- 24 グローバルPR 動画制作プログラム
- 25 英語学習プログラム（小学生・キッズ向け）

<海外研修>

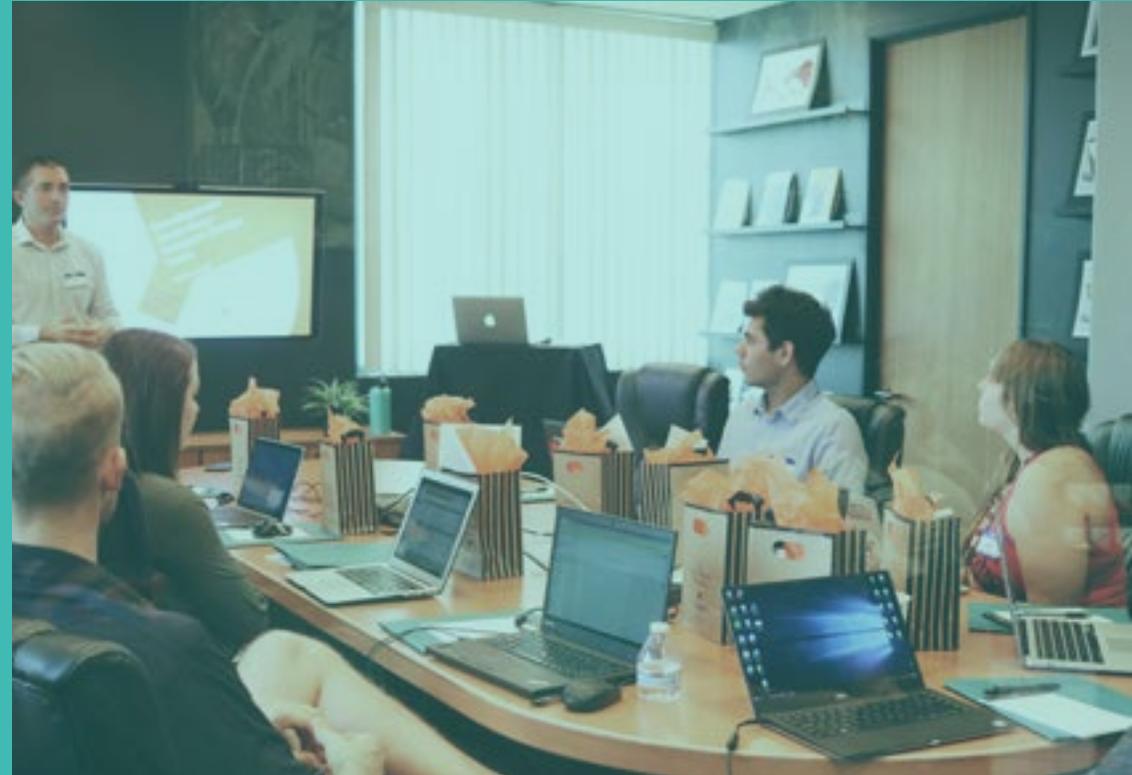
- 28 最新メディア文化に触れる ハリウッドプログラム
- 29 最新メディア文化に触れる 西海岸3都市プログラム

<指導者養成>

- 31 字幕翻訳カリキュラム導入支援プログラム

ワークショップ

新たな発見をもたらし、いつもの学習に変化と刺激を与えるワークショップ型のプログラム。
1時間程度の講演形式にも対応します。



ワークショップ

字幕翻訳ワークショップ



プロの映像翻訳者の指導のもと、映画のワンシーンに字幕をつけるワークショップ。英語学習がもつ可能性や広がり、実社会とのつながりを実感できます。映画やドキュメンタリー、日本語への翻訳と英語への翻訳など、複数の演習を組み合わせることで、いろいろな角度から語学学習への関心を喚起できるのも魅力です。

語学

異文化コミュニケーション

アクティブラーニング

コミュニケーション

プログラムの流れ

1 映像翻訳の世界を知る

英語を使った職業の1つである「映像翻訳」の仕事や業界について実例を交えながら紹介。演習に備えて簡単なルールやポイントも解説する。

2 字幕翻訳演習

映画のワンシーンを翻訳。

3 字幕を載せてシーンを鑑賞、講師からのフィードバック

プロの映像翻訳者が使用するソフトを使い、その場で映像に字幕を載せて鑑賞。講師からのフィードバックを受けながらブラッシュアップして完成させる。

学べること・身につく力

- 英語学習への興味を高め、学習意欲を刺激する
- 日常会話で使われる英語表現に触れる
- 受け手を想定した、正確で洗練された日本語表現の重要性への気づき
- 語学学習とキャリア・実社会の結びつきへの気づき
- グループで協力し、楽しみながら成功体験を得る

詳細

【対象】大学生・高校生・中学生・社会人

【時間目安】60分～

【人数目安】3人～200人

【講義料目安】1回あたり50,000円～



オプション

- 映像翻訳の仕事・業界紹介を主とした構成や、日本コンテンツの海外進出などをテーマとした講演形式も可
- 参加人数に応じて、グループで取り組むことも個人で取り組むことも可
- 英語作品に日本語の字幕をつける(英日)、日本の映像作品に英語の字幕をつける(日英)、いずれも可。混合も可
- 対面、オンラインのいずれも可

ワークショップ

6 センテンス 英語プレゼンワークショップ



観衆の気持ちを瞬時に引きつける切り出し方やストーリー構成といった英語プレゼンのエッセンスを学ぶワークショップ。相手に自分の考えをより強く伝え説得力を上げる独自の「6 センテンス・メソッド」を使って、人に薦めたい、とっておきの物を紹介する英語プレゼンにチャレンジします。

語学

異文化コミュニケーション

文化発信

コミュニケーション

プログラムの流れ

1 効果的なプレゼンの構成とポイントを学ぶ

「6 センテンス・メソッド」の構成をレクチャー。効果的な構成や話し方、ジェスチャー、質疑応答のポイントなども学ぶ。

2 6 センテンスでプレゼンを作成

参加者の英語力に応じて、穴埋め形式でプレゼンを作成することもできます。

3 プレゼン披露

練習を行った後、講師と参加者の前でプレゼンを披露。講師からのフィードバックを受ける。

4 撮影した動画をプレゼント

終了後に、各自のプレゼンを撮影した動画をプレゼント。ワークショップ受講前との変化を実感できる。

学べること・身につく力

- 初めての英語プレゼンに備える
- 英語でのプレゼンやスピーチをさらにブラッシュアップする
- 相手の興味を引く英語の話し方を身につける

詳細

【対象】 大学生・高校生・中学生・社会人

【時間目安】 60 分～

【人数目安】 3 人～ 20 人

【講義料目安】 1 回あたり 50,000 円～



ワークショップ

ボイスアクティング・ ワークショップ (日本語学習者向け)



日本語でアニメの声優体験をする、実践・体験型のワークショップ。日本語学習初心者や日本語・日本文化に関心のある方が、楽しみながら自然に日本のカルチャーや実用的な日本語に触れることができます。

語学

文化発信

プログラムの流れ

1 ウォームアップ

日本語の発音やリズムに慣れる。

2 課題となる作品やシーンの解説とセリフの練習

セリフの意味や発音を確認して、全員で練習する。

3 キャスティングとグループ練習

数人程度のグループに分けて、役を割り振ってグループで練習する。

4 収録

5 アフレコ版の上映

映像と収録音声をミックスし、各グループのアフレコ版を上映。講師や他グループからフィードバックも行う。

学べること・身につく力

- 日本語への興味を高め、学習意欲を刺激する
- アニメをはじめとする日本文化への関心と理解
- グループで協力し、楽しみながら成功体験を得る

詳細

【対象】 大学生・高校生・中学生・小学生・社会人

【時間目安】 120分～

【人数目安】 10人～50人

【講義料目安】 1回あたり50,000円～



オプション

- 英語作品など、日本語以外で作られた作品の日本語吹き替え版を素材とすることも可

ワークショップ

英語学習プログラム

(小学生・キッズ向け)



海外コンテンツ（映画やドラマ、アニメなど）を通し、聞く・話す・読む・書くの4技能+α（翻訳・読み解く力の技能）を活用しながら英語力向上を図るプログラム。英語に親しみを持ち、積極的に自らがインプット・アウトプットできることを目指します。

語学

異文化コミュニケーション

PBL

アクティブラーニング

コミュニケーション

プログラムの流れ

- 1 海外コンテンツのテーマシーンをみる（聞く技能/インプット）
短いテーマシーン（1～2分）を見て、大まかなストーリーや状況を把握する。
- 2 Q&A（聞く技能/インプット）（読み解く力の技能/アウトプット）
英語センテンスのクイズ（3問）の内容を理解する。
答えを見つけるため、集中して英語を聞き、映像を見ながら読み解く。
Q&Aで得た情報をもとに再度映像を見ながら内容を理解する。
- 3 日本語訳を考える（翻訳の技能/アウトプット）
英語と日本語を連動させながら考える。
想像力を働かせながら、自分の言葉で置き換える。
- 4 スクリプトを音読する（読む技能/アウトプット）
テーマシーンの中に出てくる短いセリフを声に出して読む。
英語のアクセント、リズム、発音などを学ぶ。
役になりきりアテレコをする（話す技能/アウトプット）。
- 5 ライティング・アクティビティ（書く技能/アウトプット）
テーマシーンの中に出てくる英語フレーズを自分に置き換えて書く。
- 6 スピーキング・アクティビティ（話す技能/アウトプット）
ライティング・アクティビティで書いた英語フレーズで伝えてみる。
英語コミュニケーション術（表情、ジェスチャーなど）を知る。
講師や生徒同士で会話を試みる。

学べること・身につく力

- 英語を身近に感じ関心を高め合う
- 異文化への興味や理解
- コミュニケーションを図る体験を楽しく積み、成功体験を得る
- 実際の英語活動やコミュニケーションにつなげる
- 発音・語彙・文法等の間違いを恐れず、積極的に英語を使おうとする力
- 言語スキルだけに留まらないグローバル人材としての読み解く力や対応力
- 英語学習を継続する上での思考力や知識

詳細

- [対象] 小学生
[回数目安] 1～30回（45～90分/回）
[人数目安] 10人～30人
[講義料目安] 1回あたり30,000円～



中期～長期 プログラム

一定期間取り組むことで、大きな成長が期待できるプログラム群。大学や小学校などでも導入された実績がその効果を実証します。



中期～長期プログラム

字幕翻訳プログラム



グループで協力しながら作品を翻訳する、プロジェクト型の字幕翻訳プログラム。幅広い語学レベルに応じて導入でき、コミュニケーション力や自主性、協調性などが磨かれるのが大きな特徴です。

語学

異文化コミュニケーション

PBL

アクティブラーニング

プログラムの流れ

1 翻訳する映像作品を選定する

SDGs、地域の課題・文化等を扱ったドキュメンタリー映画などから作品を選定する。

2 全員で映像作品に字幕をつける

作品を分割し、以下のサイクルを繰り返して翻訳を完成させていく。

- ①原文、ストーリー、作品背景を十分に理解する
- ②グループディスカッションしながら翻訳を行う
- ③講師または他グループからのフィードバックを受ける
- ④再びグループディスカッションしながら字幕を修正する

3 完成した字幕作品を上映する

上映会を開催し、家族や地域住民などに学習内容や成果を披露する。

学べること・身につく力

- 協調性・主体性・コミュニケーション力
- コンテキスト理解や異文化理解までを包摂した実践的な英語力
- 高度かつ総合的な日本語運用力
- SDGs 等に対する理解やソーシャル意識
- 語学学習とキャリア・実社会の結びつきへの気づき

詳細

【対象】 大学生・高校生・中学生・社会人
 【時間目安】 60分～
 【人数目安】 3人～200人
 【講義料目安】 1回あたり50,000円～



オプション

- 映像翻訳の仕事・業界紹介を主とした構成や、日本コンテンツの海外進出などをテーマとした講演形式も可
- 参加人数に応じて、グループで取り組むことも個人で取り組むことも可
- 英語作品に日本語の字幕をつける（英日）、日本の映像作品に英語の字幕をつける（日英）、混合、いずれも可
- 対面、オンラインのいずれも可

中期～長期プログラム

【開催レポート】

明星大学「映像翻訳」



明星大学「映像翻訳」 もしも、自分たちが訳した字幕が国際的な映画祭で上映されたら…？ 毎年、多くの明星大学の学生たちが履修する通年科目「映像翻訳」では「UNHCR WILL2LIVE Cinema」に出品される作品の翻訳に取り組みます。“作品が描くもの”を伝えるためには、さまざまな力が求められます。

映画が描く出来事や背景を伝えるには？

学生たちが議論を交わしながら翻訳し、上映する

明星大学人文学部国際コミュニケーション学科の「映像翻訳」は、2014年にスタートした通年科目です。カリキュラム策定から指導、成績評価までをJVTAの講師・スタッフでもある非常勤講師5名が担当。毎年度、1年生から4年生までの計20～30名の学生が履修しています。

講義では、まず前期で日本語字幕翻訳のためのスキルの習得と演習を行います。そして8～9月の夏期集中講義では、前期での学びを活かして、映画祭「UNHCR WILL2LIVE Cinema」に出品さ

れる海外ドキュメンタリー映画の翻訳に取り組みます。「UNHCR WILL2LIVE Cinema」は、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の活動を支える日本の公式支援窓口である国連UNHCR協会が主催する映画祭。「映像翻訳」では、そのうち1作品を履修生全員で分担して翻訳します。

そして翻訳が完成したあとの後期授業では、大学内で行う自主上映会の開催に向けて、企画・運営・告知活動を行います。

2020年度の集中講義では、『戦

火のランナー』（2019年製作／88分）を翻訳。10日間、毎日6時間にわたって翻訳作業を行いました。語学レベルもさまざまな学生たちは、グループで協力し、時には議論を交わしながら、作品に描かれている出来事や背景を観客に伝えるために知恵を絞り、工夫を凝らしました。大変な作業でしたが、「翻訳が完成した時の達成感他では味わったことのないものだった」という履修生の声からも分かるように、充実した時間となりました。

その後、11月に開催したオンラインの自主上映会には、一般の方々や大学・教育関係者らおよそ100名が参加。学生の発案でゲストにシドニー五輪金メダリスト

の高橋尚子さんをお迎えして難民ランナーについてのお話を伺うなど、コロナ禍という特殊な状況下でも大成功を収めました。

なお、『戦火のランナー』はその後、

全国劇場公開が決まり、学生たちが携わった字幕つきで上映されています。履修した学生たちにとっては、自分たちの学びが実社会と結びついているという醍醐味も強く感じてもらえたことでしょう。



中期～長期プログラム

【開催レポート】

海外大学字幕プロジェクト

(Global Universities Subtitling Project)



「海外大学字幕プロジェクト（略称：GUSP）」は、日本語や日本文化を学ぶ海外の大学生らが、業界の第一線で活躍するプロの映像翻訳者から指導を受けながら、日本の短編映画に英語字幕をつけ、世界に向けて発信するプロジェクトです。

学びながら作った字幕を世界最大級の映画祭で上映

世界各地の大学生の指導にあたるのは、日本映像翻訳アカデミーの映像翻訳ディレクター／講師。講義にはビデオ会議システムを導入し、東京と現地の教室をつないでディスカッション形式で行います。4～5回にわたる講義の中で翻訳作業を進め、完成した各大学オリジナルの英語字幕は、宣伝から運営までを学生たちが行う特別上映会で上映します。

例えばプロジェクトの第8弾では、ドイツ・デュッセルドルフのハインリッヒ・ハイネ大学から38名の学生が参加。悩み多き高校生の日常を

描いた短編映画『アスタースクールデイズ』（稲田百音監督）の日英字幕翻訳に取り組みました。字幕翻訳についてのインストラクションを受けた後、7つのグループに分かれて字幕を制作。毎回ディスカッションと講師から受けるアドバイスをもとに推敲を重ねていきます。日本固有の文化を背景に持つ言葉の訳し方や字数制限など、一筋縄ではいかない字幕制作を通して学びを深めていきました。今回手がけた作品は、世界最大級の日本映画祭「ニッポン・コネクション」で上映され、学生たちは大きな達成感を得た様子でした。

これまでGUSPに参加した学生からは「実践的な日本語学習がとても面白かったです。作品のコンテキストを理解し、登場人物の感情をヨーロッパのオーディエンスに正しく伝えなくてはなりません。私にとっては素晴らしい学びでした」といった感想が、教授からは「学生たちがGUSPを通じて身につける知識と経験は、彼らの将来の研究に必ず役に立つでしょう」といったコメントが寄せられています。



中期～長期プログラム

グローバル PR 動画制作 プログラム



テーマに基づいて動画を制作し、字幕を付けて世界に発信するプログラム。

動画制作の基礎に加え、取材、インタビュー、字幕翻訳などを通じて言語運用力まで磨けるのが特色です。

語学

文化発信

メディアリテラシー

コミュニケーション

異文化コミュニケーション

プログラムの流れ

1 世界に発信したいテーマを設定

自らの問題意識を背景とした社会・環境問題や、地域・学校の紹介など、グローバルに発信したいテーマを設定する。

2 リサーチを通じて動画の構成を考える

グループでのディスカッションや取材、インターネット、文献などを通じてリサーチを行い、理解を深める。受け手に的確に伝えるために動画の構成を組み立てる。

3 撮影・編集

スマホ、タブレットなどを使用して撮影および編集を行う。カメラ、音声、照明、インタビュアー、ナレーション担当など、役割を分担してグループ全員で取り組む。

4 字幕をつける

グローバル発信に欠かせない英語字幕をつける。

5 完成した作品を学校ウェブサイト、YouTubeなどで公開する

学べること・身につく力

- 映画制作の基礎とメディアリテラシー
- 社会問題や地域の文化などへの深い理解
- 海外への発信を意識した異文化コミュニケーションの視点
- 社会でも通用する日本語運用力、コミュニケーション力
- 実践的な英語力

詳細

[対象] 大学生・高校生・中学生

[回数目安] 10～30回 (60～90分/回)

[人数目安] 5人～20人

[講義料目安] 1回あたり 40,000円～



オプション

- 英語プレゼンワークショップと組み合わせることも可
(インタビューやナレーションの代わりに、自らによるプレゼンを撮影し、字幕をつける)

中期～長期プログラム

英語学習プログラム

(小学生・キッズ向け)



海外コンテンツ（映画やドラマ、アニメなど）を通し、聞く・話す・読む・書くの4技能+α（翻訳・読み解く力の技能）を活用しながら英語力向上を図るプログラム。英語に親しみを持ち、積極的に自らがインプット・アウトプットできることを目指します。

語学

異文化コミュニケーション

PBL

アクティブラーニング

コミュニケーション

プログラムの流れ

- 1 海外コンテンツのテーマシーンを見る（聞く技能/インプット）**
短いテーマシーン（1～2分）を見て、大まかなストーリーや状況を把握する。
- 2 Q&A（聞く技能/インプット）（読み解く力の技能/アウトプット）**
英語センテンスのクイズ（3問）の内容を理解する。
答えを見つけるため、集中して英語を聞き、映像を見ながら読み解く。
Q&Aで得た情報をもとに再度映像を見ながら内容を理解する。
- 3 日本語訳を考える（翻訳の技能/アウトプット）**
英語と日本語を連動させながら考える。
想像力を働かせながら、自分の言葉で置き換える。
- 4 スクリプトを音読する（読む技能/アウトプット）**
テーマシーンの中に出てくる短いセリフを声に出して読む。
英語のアクセント、リズム、発音などを学ぶ。
役になりきりアテレコをする（話す技能/アウトプット）。
- 5 ライティング・アクティビティ（書く技能/アウトプット）**
テーマシーンの中に出てくる英語フレーズを自分に置き換えて書く。
- 6 スピーキング・アクティビティ（話す技能/アウトプット）**
ライティング・アクティビティで書いた英語フレーズで伝えてみる。
英語コミュニケーション術（表情、ジェスチャーなど）を知る。
講師や生徒同士で会話をしてみる。



学べること・身につく力

- 英語を身近に感じ関心を高め合う
- 異文化への興味や理解
- コミュニケーションを図る体験を楽しく積み、成功体験を得る
- 実際の英語活動やコミュニケーションにつなげる
- 発音・語彙・文法等の間違いを恐れず、積極的に英語を使おうとする力
- 言語スキルだけに留まらないグローバル人材としての読み解く力や対応力
- 英語学習を継続する上での思考力や知識

詳細

【対象】小学生
【回数目安】1～30回（45～90分/回）
【人数目安】10人～30人
【講義料目安】1回あたり30,000円～

中期～長期プログラム

【開催レポート】

東京都中央区立常盤小学校

頭胸と中央区立常盤小学校 常盤小学校の生徒たちは皆、英語が大好き。

その理由は、映像翻訳のエッセンスを取り入れた授業にあります。映画やアニメの登場人物を真似したり、日本語に置き換えてみたり…。語彙力を伸ばし、理解力を養う通年プログラムです。

大好きな映画やアニメで英語を読み解く
成功体験を重ねるから、英語が好きになる

東京都中央区立常盤小学校（※国際教育推進パイロット校）の英語授業は、2014年にスタートした通年授業です。カリキュラム策定から指導までをJVTAの講師・スタッフでもある英語ネイティブ（バイリンガル）が小学校と連携を取りながら担当し、毎年度、3年生と4年生の各2クラス（約30名）の授業を週1回、計30回を受け持っています。

45分間の授業では、生徒が興味を持ちやすい映画やアニメを教材に使用し、映像に出てくる会話を通して、「聞く」「話す」「読む」「書

く」の4技能+α（翻訳・読み解く力の技能）学習しています。

オールイングリッシュの授業の中で、英語のインプット・アウトプットとともに行われる映像翻訳の要素（作品解釈、吹き替え翻訳）を用いた学習法は、英語を映像から一緒に読み解いていくため、生徒はイメージを膨らませながら理解を深めることができます。また翻訳スキルをベースにした思考力は、語彙力を伸ばし、自然な日本語に置き換えようとする力や、真の英語の理解力を養っています。

例えば人気日本アニメ英語版でのワンシーン。主人公が初対面の人に、自分と妹を紹介するシーンでは、“I’m ~ and that’s ~ . Nice to meet you.” “Well, it’s nice to meet you, too.” というフレーズを映像とともに聞き取り、「日本語のセリフにすると？」と考えてみます。そして、登場人物や講師の発音・アクセントを真似ながらアテレコをしたり、自らのフレーズに置き換えてみたりしながら、生きた英語を習得していきます。各学期末には英語の成果発表の場として、英語スピーチ発表会を開催。一人ずつ皆の前で英語ス

ピーチを披露し、後日、録画した映像の上映会をします。講師やクラスメートと成果を認め合うことで、英語の成功体験の場を積み重ねています。

※国際教育推進パイロット校

国際社会に生きる日本人としての自覚や誇りを養い、多様な文化を尊重できる態度や資質を育む国際教育を推進する。国際教育の在り方や教育内容について、先行的に研究・開発を行う。





海外研修

エンターテインメントの本場ロサンゼルスに拠点があるメリットを生かしたプログラム。語学、映像制作、エンターテインメントに関心のある学生に最適です。



海外研修

最新メディア文化に触れる 西海岸3都市プログラム

米国発のメディアとエンターテインメントの生成の現場であるシリコンバレーとハリウッド、サンフランシスコの3都市を訪れ、現地を視察する研修プログラム。有識者のレクチャーを受けたり、西海岸の都市文化を体験したりすることで、グローバルな伝播力を持ったカルチャーを肌身で感じることができます。



プログラム構成

- 1 ハリウッドを中心としたエンターテインメントの最前線で活躍する方のレクチャー**
映画監督、プロデューサー、脚本家、通訳者、動画配信サービスディレクター、日本コンテンツプロデューサーなど。
- 2 メディアの現場訪問と講演**
映画スタジオ見学ツアー、アカデミー賞関連イベント参加、メディア企業メンバーを迎えての講演・交流など。
- 3 各都市の文化拠点を探訪**
UCLA キャンパス訪問、グリフィス天文台、J・ポール・グティ美術館（ロサンゼルス）、Google など大手IT企業・スタートアップ企業視察、スタンフォード大学キャンパス・ツアー（シリコンバレー）、オラクル・パークツアー（サンフランシスコ）など。

行程例

1. 日本からロサンゼルスへ／市内見学
2. ワーナー・ブラザーズ・スタジオツアー、ロケ地周遊ツアー
3. ロサンゼルス・カウンティ美術館鑑賞／J・ポール・グティ美術館鑑賞／UCLA キャンパス訪問
4. 映画製作者、メディア関係者の講演／自由行動
5. ロサンゼルスからサンフランシスコを経由してシリコンバレーへ
6. 現地IT&メディア企業訪問
7. スタンフォード大学キャンパス・ツアー／シリコンバレーからサンフランシスコへ
8. 市内見学／メディア関係者、テック関係者の講演
9. サンフランシスコから日本へ／帰国
10. 日本着

詳細

【対象】 大学生
 【期間目安】 10泊12日～12泊14日
 【人数目安】 10人～20人
 【参加費目安】 1人あたり380,000円～

費用内訳

- 参加費に含まれる主な項目：渡航費、空港諸税、宿泊料金（2名1室予定）、研修にかかる交通費、研修中のツアー等 参加費用、ロサンゼルス～シリコンバレー～サンフランシスコの移動費、空港～ホテル間の往復送迎費など
- 搭乗員：なし（一部を除く）

海外研修

最新メディア文化に触れる ハリウッドプログラム

エンターテインメントの本場・ハリウッドで行われる、「視察」と「ワークショップ」から構成される海外研修プログラム。主な対象は、エンターテインメント業界・メディア業界・映像制作などに関心がある大学生、関連業界への就職を目指す大学生です。



プログラム構成

1 エンターテインメントの最前線で活躍する方のレクチャー

映画監督、プロデューサー、脚本家、通訳者、動画配信サービスディレクター、日本コンテンツプロデューサーなど。

2 エンターテインメントの現場訪問、企業・団体視察

アカデミー賞関連イベントへの参加、スタジオ見学ツアー、Japan Foundation 視察、New York Film Academy LA campus 視察など。

3 エンターテインメント作品を世界に届けるための仕事を体験

映画のワンシーンの字幕翻訳を体験する「字幕翻訳ワークショップ」、映画やドラマのワンシーンを題材に、英語のアフレコにチャレンジする「ボイスアクティング・ワークショップ」など。

4 ロサンゼルス文化拠点を探訪

UCLA キャンパス訪問、グリフィス天文台、J・ポール・ゲティ美術館など。

行程例

1. 日本からロサンゼルスへ／ハリウッド訪問
2. ロケ地巡り（グリフィス天文台、ロサンゼルス市庁舎など）／ロサンゼルス・カウンティ美術館鑑賞
3. スタジオ見学ツアー
4. 映画監督、プロデューサーなどメディア関係者による講演・ワークショップ
5. 字幕翻訳半日ワークショップ
6. ロサンゼルスから日本へ／帰国
7. 日本着

詳細

【対象】大学生

【期間目安】5泊7日～7泊9日

【人数目安】10人～20人

【参加費目安】1人あたり250,000円～

費用内訳

- 参加費に含まれる主な項目：渡航費（東京→ロサンゼルス、ロサンゼルス→東京）、空港諸税、宿泊料金、研修にかかる交通費、研修中のツアー等参加費用、空港～ホテル間の往復送迎費など
- 搭乗員：なし（一部を除く）

指導者養成

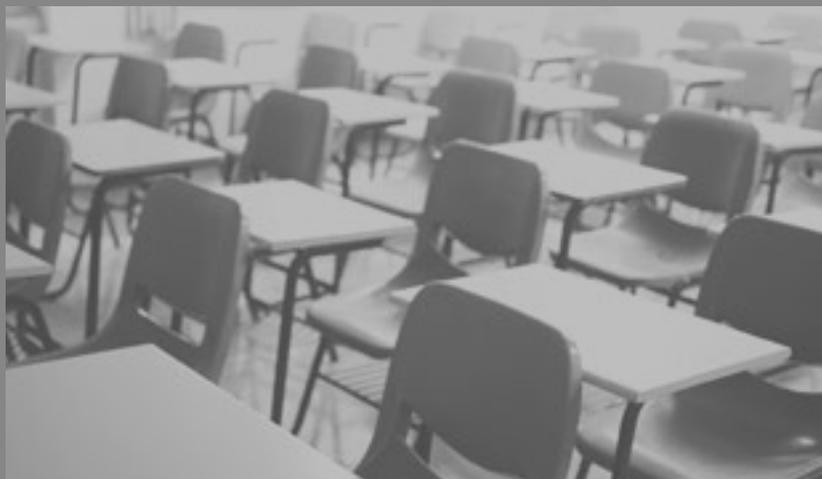
より長期的に LMC 教育プログラムプログラムを導入することを視野に、学校教育機関の教員が指導を担えるようにするためのサポートプログラムです。



指導者養成

字幕翻訳カリキュラム導入支援プログラム

字幕翻訳プログラムの導入にあたり、教員による指導を希望する学校のためのプログラム。JVTA の講師が長期プログラムを直接指導するよりも、予算を抑えることが可能です。導入後のサポートも行い、長期的な講義運営を実現します。



プログラム構成

1 導入計画や指導体制についてのヒアリング

学校側が想定している指導計画、到達目標、指導体制などについてヒアリング。最適なカリキュラムを提案。

2 指導担当教員へのレクチャー

字幕翻訳のポイントから講義の進め方まで、短期集中でレクチャーします。

3 導入後サポート

講義を進める中で出てきた問題点などについて適宜アドバイスを行い、スムーズな講義運営をサポートします。

詳細

【対象】 社会人（教職員・講師など）

【期間目安】 5日間程度～

【人数目安】 1人～10人

【講義料目安】 200,000円～

費用内訳

- 複数の教員への指導も可
- カリキュラムの一部に JVTA 講師による学生・生徒への直接指導を組み込むことも可
- 対面、オンラインのいずれも可

字幕翻訳カリキュラム導入支援プログラム

【開催レポート】

あさひ学園サンタモニカ校高等部



あさひ学園サンタモニカ校高等部 教員が字幕翻訳の教え方を習得すれば、プログラムの長期的な運営が可能です。「字幕への取り組みを通じて、日本語や日本に対する関心が明らかに高まった」——補習校「あさひ学園」では保護者からの喜びの声が寄せられました。

字幕翻訳のポイントを学びながら 講義の進め方も実体験する

ロサンゼルスにある補習校あさひ学園では、字幕翻訳を正規科目として採用しています。科目名は「比較表現」。2020年度に新設されたサンタモニカ校高等部グローバルコースの授業の1つとして、平日は現地校に通学する生徒たちの日本語力向上を目指して導入されました。

学園に所属する教員へのレクチャーは、導入の前年にロサンゼルスで実施。6名の参加者のうち、メインで指導を担当する予定の教員に映像翻訳の学習経験があるという特別な事情を踏

まえ、2日間のみ短期集中で行いました。

1日目は、映像翻訳概論や字幕のルールといった基本を指導するレクチャーが中心。短編映画などを題材にした翻訳演習を挟みながらレクチャーが進みます。2日目は、初日終了後に取り組んでもらった翻訳課題へのフィードバックを行いました。これには、講師からのコメントで字幕翻訳のポイントを学ぶとともに、実際の講義の進め方を体験してもらおうという狙いも。その後、年間カリキュラムや生

徒たちが翻訳する作品の上映会開催についてのアドバイス、質疑応答などを行って、2日間のプログラムが終了しました。

その後、初年度のサンタモニカ校高等部には、9名の生徒が入学しました。「比較表現」では1学期から2学期前半にかけて字幕翻訳の演習を行い、10月からは日本を舞台にしたドキュメンタリー作品の字幕翻訳にチャレンジ。完成した作品は保護者も出席した上映会で披露されました。保護者の方々からは、「字幕への取り組みを通じて、日本語や日本に対する関心が明らかに高まったことに驚きました」などの喜びの声が寄せられました。

さらに、2年次のカリキュラムにはLMC教育プログラムの「グローバルPR動画制作プログラム」の要素が盛り込まれており、動画制作指導についての教員向け研修も実施しました。JVTAでは今後もさまざまな形で講義のサポートを続けていきます。



導入実績一覧

JVTAは2010年からこれまでに、国内・国外の40校以上でLMC教育プログラムに基づいた指導を実践してきました。「提供コース&プログラム」内の「開催レポート」ではフォーカスしきれなかった実例もご紹介します。

国内の大学

- 青山学院大学 総合文化政策学部**
 - ・英日映像翻訳とプロジェクト型学習 (UNHCR WILL2LIVE Cinema 大学オフィシャル パートナース)
 - ・映像翻訳概論
 - ・日本語字幕演習/英語字幕演習
- 明星大学 人文学部 国際コミュニケーション学科**
 - ・日本語字幕演習
 - ・英語字幕演習
 - ・上映会プロジェクト学習 (UNHCR WILL2LIVE Cinema 大学オフィシャル パートナース)
- 神田外語大学 英米語学科**
 - ・映像翻訳概論/日本語字幕演習
 - ・英語字幕演習 (グループワーク)
- 大谷大学 「文藝塾」**
 - ・人間学 (深い思考力、高度コミュニケーション、読み書き)
- 創価大学 ロシアセンター**
 - ・映像翻訳概論/日本語字幕演習
- 法政大学**
 - ・学生たちが企画した動画を撮影・編集し、英語の字幕をつけて60秒の英語動画を完成させる。

- 東洋大学 社会学部社会文化システム学科**
 - ・映像翻訳概論/日本語字幕演習
- 神奈川大学 外国語学部**
 - ・映像翻訳/異文化コミュニケーション
- 神戸女学院**
 - ・映像翻訳概論/日本語字幕演習
- 明治学院大学 大学院芸術学専攻**
 - ・映像翻訳概論/字幕演習

海外の大学

- アーバイン・バレー・カレッジ (カリフォルニア)**
 - ・日本アニメ・マンガのローカライズについて/字幕演習
- ロンドン大学 (イギリス・ロンドン) 東洋アフリカ研究学院**
 - ・映像翻訳概論/英語字幕演習
- RUDN 大学 (ロシア・モスクワ)**
 - ・映像翻訳概論/英語字幕演習
- ウィーン大学 (オーストリア・ウィーン)**
 - ・英語字幕ワークショップ
- ボモナ大学 (アメリカ・カリフォルニア)**
 - ・英語字幕ワークショップ

- ゲント大学 (ベルギー・ヘント)**
 - ・海外大学字幕プロジェクト
 - ※オンラインで現地と結び、短編日本映画に英語字幕をつける
- ハインリッヒ・ハイネ大学 (ドイツ・デュッセルドルフ)**
 - ・海外大学字幕プロジェクト
 - ※オンラインで現地と結び、短編日本映画に英語字幕をつける
- ローハンプトン大学 (イギリス・ロンドン)**
 - ・英語字幕レッスン

高校

- 三重県立川越高校**
 - ・映像翻訳概論/日本語字幕演習/英語字幕演習
- 東京成徳大学高等学校**
 - ・日本語字幕演習/英語字幕演習
- 宮城県宮城野高等学校**
 - ・学校訪問・研修

中学校

- 愛知教育大学付属岡崎中学校**
 - ・インタビュー

- 宝仙学園中学校**
 - ・学校訪問・研修 (映像翻訳者の仕事とは? 字幕翻訳ワークショップ/質疑応答)

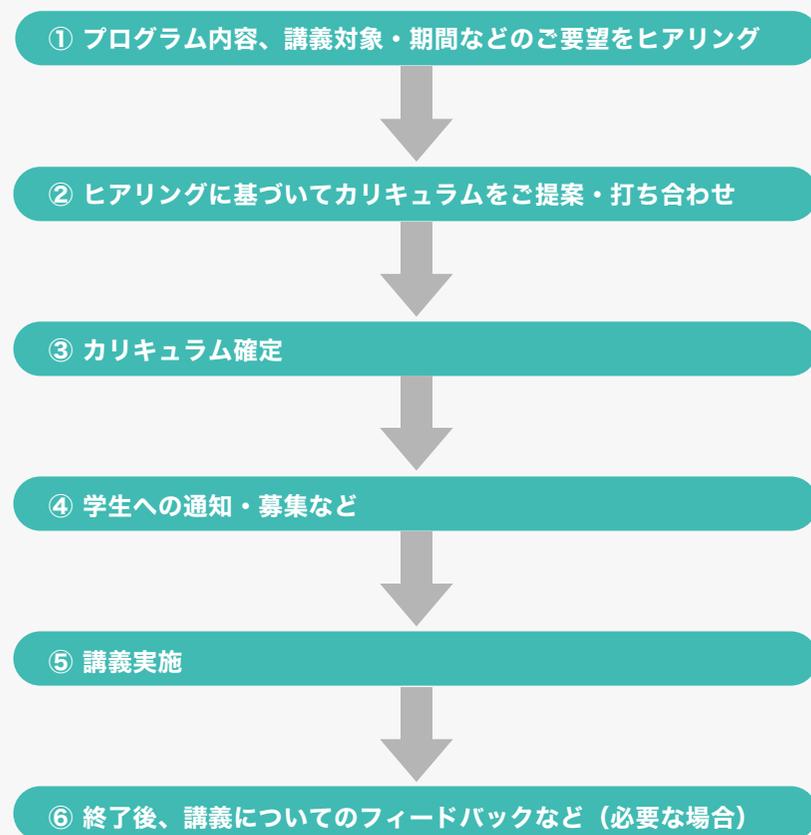
小学校

- 中央区立常盤小学校**
 - ・中央区国際教育推進パイロット校指定
 - 映像を通じて生きた英語に親しむ

その他の教育機関・団体

- 次世代リーダー育成道場 (東京都教育委員会)**
 - ・国内研修で様々なことを学び、その成果をもって留学にチャレンジする都立高校生を支援するプログラム
 - ・英語研修を担当。自分たちが紹介したい日本の魅力について日本語で映像を制作。英語字幕完成まで
- アクティブ・ラーニング・フォーラム (全国教職員研修会)**
 - ・通常の英語教育ではなく、論理的思考や状況(物語、文脈)の把握、異文化理解などを楽しみながら学ぶ、アクティブ・ラーニングとしての英語字幕制作ワークショップを開催

LMC教育プログラム 導入までのフロー



お問い合わせ

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 3-2-4
共同ビル (日銀前) 2F/3F

日本映像翻訳アカデミー 学校教育部門

●お問い合わせフォーム

https://www.jvta.net/education_form/

TEL:03-3517-5002

FAX:03-3272-5057



日本映像翻訳アカデミーは、情報セキュリティの国際規格「ISO/IEC 27001」認証を取得しています。

